

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2025年2月1日 No.78

「被害者が加害者にされた！ JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」

2025年2月1日 東京新聞

JR東社員「パワハラ」提訴

「加害者にされ処分、不当」

同社や元上司ら

JR東日本の男性社員(24)が31日、上司から暴行などパワハラを受けたのに、逆に加害者とされて懲戒処分と出向処分を受けたのは不当として、同社や元上司らを相手に処分取り消しと慰謝料を求めて東京地裁に提訴した。

原告は昨年7月からJR東日本グループのバス会社の子会社への出向を命じられ、警備や誘導の業務にあたる。訴状によると、武蔵小金井駅に勤務していた原告は、昨年4月15日夜、勤務中の上司から肩付近をつかまれソファに押し付けられる暴行を受けた。逃げようとしたところ、両手で突き飛ばすと、上司は尻もちをついた。原告はその後、会社側と3回面談。会社側は「上司への暴行は重い犯罪行為」として同年7月、出勤停止20日間の懲戒処分と出向処分(3年間)を通告し話している。

背景に人手不足や企業体質？

JR東日本の若手社員が暴力やパワハラを受けたとして同社などを提訴した背景には、日本の交通の大動脈を支える鉄道会社にとって最も重視すべき安全第一の企業風土が、人手不足のなかでおろそかにされかねない危機感があつた。(労働問題取材班)

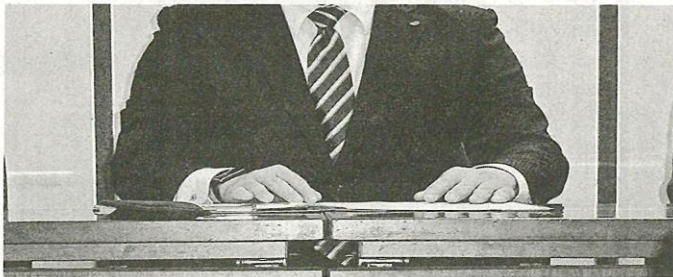
同社の最大労組である東日本旅客鉄道労働組合(JR東労組)によれば、同社員は国民営化で発足した1987年の8万3千人から昨年は4万4千人とほぼ半減。深刻な要員不足の中、乗務員が駅業務まで担うなど1人で3、4

つとした状況下でパワハラ事件が近年急増したと同労組は指摘する。例えば、2022年11月に北関東で信号確認を行わず速度超過した運転士は、再教育や訓練の中でパワハラやごう喝を受け、うつ病を発症し、現在も欠勤が続く。

原告の仲田隆介弁護士は「同社には、パワハラや暴行を受けようが、上司には絶対従わなければならない企業体質が感じられる」という。

さらに、大きな問題とされるのが「日勤教育」の存在だ。旧国鉄時代から続く再発防止のための再教育制度だが、実態は個人の責任を追究する懲罰的意味合いがあるとされる。05年のJR西日本の福知山線脱線事故は、日勤教育を避けた精神的重圧が背景にあると事故調査委員会が指摘した。それがJR東では「適切な教育制度」(同社幹部)として続けられている。

労組側「近年被害急増」と指摘



「私のようなパワハラ被害をこれ以上出さないために提訴に踏み切った」と話す原告男性=1月31日、東京・霞が関の司法記者クラブで

JR東労組はAさんと共に闘い抜きます！